

令和 6 年 3 月 28 日

深川市議会議長 近沢 弘幸 様

会 派 名 公政クラブ
代表者名 鶴岡 恵司 

政務活動費収支報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第 1 1 条第 1 項 (第 2 項) の規定により、下記のとおり令和 5 年度政務活動費収支報告書を提出します。

記

1 収入
政務活動費 600,000 円

2 支出

(単位：円)

科目	金額	備考
調査研究費	511,128	10月10～13日第85回全国都市問題会議(青森県八戸市) 宮城県栗原市への行政視察(移住・定住の取組) 2月5～8日 ウム・ヴェルト(株)への企業訪問 国会議員への要請活動
研修費		
広報費		
広聴費		
要請・陳情活動費		
会議費		
資料作成費		
資料購入費	88,872	地方公共団体のための補助金活用ガイド
人件費		
事務所費		
合計	600,000	

(注) 備考欄には、主たる支出の内訳を記載する。

3 差額 0 円



令和6年3月28日

深川市議会議長 近沢 弘幸 様

会 派 名 公政クラブ

代 表 者 名 鶴岡 恵司



政務活動費実績報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、下記のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費	<input type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input checked="" type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	① 調査活動 2月6日(調査研究費) ② 要請活動 2月7日(要請・陳情活動費) ③ 資料購入 2月20日(資料購入費)				
実施場所	① 調査活動(ウム・ヴェルト株式会社) ② 要請活動(国会議員への陳情) ③ 資料購入費				
参加者名	鶴岡恵司、近沢弘幸、北村 薫、有働正夫、村上 誠				
実績額	327,828 円 (うち交付請求額 194,264 円)				
内 容	<p>① 調査活動～別紙の通り</p> <p>② 要請活動～別紙の通り</p> <p>③ 資料購入費 「地方公共団体のための補助金活用ガイド」定期更新</p> <p>※2月6日は埼玉で「調査研究」、7日の東京での政務活動は「陳情・要請活動」を行ったものであるが、一連の活動であることから、その費用をそれぞれの用途に分けることは困難であるために一括して「調査研究費」として請求するもの。</p>				

令和5年度「公政クラブ」政務活動報告書

期 日： 令和6年2月5日～8日

視察研修地： 1.埼玉県加須市 ウム・ヴェルト株式会社
2.東京都千代田区 総務省副大臣室
3.東京都千代田区 第2議員会館

参加者： 鶴岡恵司、近沢弘幸、北村 薫、有働正夫、村上 誠

調査内容

2月6日(火) ウム・ヴェルト株式会社

<目的>

小柳取締役会長への表敬訪問

小柳明雄代表取締役会長に面会し、深川市へのご寄付(1000万円)のお礼を申し上げます。その際、会長の深川市への思いや、市の発展のためにも小さなことからコツコツ継続していくことの大切さを伺った。

その後、加須リサイクルセンターを見学。ペットボトル、スチール缶、アルミ缶等の処理施設の説明を受ける。



2月7日(水) 総務省、第2議員会館にて要請

総務省副大臣室にて渡辺孝一総務副大臣に、また、議院第2会館にて稲津久衆議院議員、神谷裕衆議院議員に面会。深川市における懸案事項に関する要請書を手交し、市がおかれている状況を説明、問題解決に向けた支援、協力を要請した。







令和5年12月15日

深川市議会議長 近沢 弘幸 様

会 派 名 公政クラブ

代 表 者 名 会長 鶴岡 恵司



政務活動費実績報告書

深川市議会政務活動費の交付に関する条例第8条の規定により、下記のとおり報告します。

記

使 途	<input checked="" type="checkbox"/> 調査研究費	<input type="checkbox"/> 研修費	<input type="checkbox"/> 広報費	<input type="checkbox"/> 広聴費	<input type="checkbox"/> 要請・陳情活動費
	<input type="checkbox"/> 会議費	<input type="checkbox"/> 資料作成費	<input checked="" type="checkbox"/> 資料購入費	<input type="checkbox"/> 人件費	<input type="checkbox"/> 事務所費
実施期間	① 調査活動 10月10日～13日 (調査研究費) ② 資料購入 7月13日 (資料購入費)				
実施場所	① 調査研究費 (第85回全国都市問題会議他) ② 「地方公共団体のための補助金活用ガイド」内容更新				
参加者名	鶴岡恵司、北村 薫、有働正夫、村上 誠				
実績額	405,736円 (うち交付請求額 405,736円)				
内 容	① 調査活動～別紙のとおり ② 会派書籍 (控室書架) 「地方公共団体のための補助金活用ガイド」定期更新				

令和5年度「公政クラブ」政務活動報告書

期 日： 令和5年10月10日～13日
視察研修地： 1.宮城県栗原市 栗原市役所
2.岩手県盛岡市 Mファーム
3.青森県八戸市 第85回全国都市問題会議
参加者： 鶴岡恵司、北村 薫、有働正夫、村上 誠

調査内容

10月11日(水) 宮城県栗原市役所

<調査目的>

移住・定住促進の取り組みについて

<説明員>

栗原市議会	議長	高橋 渉
企画部定住戦略室	係長	栗原 聡
	主査	佐藤 理香
議会事務局	次長	國井 浩
	係長	中村 純子

栗原市は、宮城県内陸北部に位置し、平成17年4月1日近隣10町村が合併し誕生した。当時の人口は82,588人であったが令和5年3月31日現在66,618人、18年で16,000人弱の人口が減少した。こうした人口減少に歯止めをかけるため、各種対策を実施している。

1. 首都圏等での移住相談会・移住定住支援員の設置

東京くりはらオフィスを開設し、栗原と東京をつなぐコミュニティ拠点を創った。年5回から10回程度のイベントを実施し、栗原市をアピールしてきた。その結果、令和4年では延べ193人が栗原市に来訪し、東京から4組7人が栗原市に移住した実績をもつ。仙台くりはらオフィスも開設している。

2. オンライン相談の実施

令和2年77件、令和3年82件、令和4年10件の相談に対応。現地に来ることができない方に人気である。

3. 移住定住コンシェルジュとの連携

公民連携による移住定住の推進力として、市の取り組みを積極的に支援してくれる方々に委嘱している。現在は 23 組 36 人が参加している。訪問者への対応、移住者との交流会を通じて「ゆるやかなつながりネットワーク」の構築に尽力していただいている。



<調査を振り返って>

大都市仙台とも近く、東京までは新幹線で結ばれており、地の利を生かした対策をとっている。また、JR 車内に広告を設置するなど PR に力を入れている。当市でも各種施策を実施しているので、その認知度を高める努力が必要であると感じた。

10月11日(水) M farm (岩手県盛岡市)

<調査目的>

産地直売所の視察

近郊農家で収穫された農産物、花卉の直売所を視察した。



10月12日(木)～13日(金) 第85回全国都市問題会議 (青森県八戸市)

テーマ 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

第1日目

開会式

開会挨拶	全国市長会会長	福島県相馬市長	立谷 秀清
開催市市長挨拶	青森県八戸市長		熊谷 雄一
来賓祝辞	青森県知事		宮下 宗一郎

基調講演 「アート役割って何だろう」

日比野 克彦(東京藝術大学長、アーティスト)

主報告 「八戸市の文化・スポーツによるまちづくり」

熊谷 雄一(青森県八戸市長)

一般報告 「まちづくりの活力は地域に根ざした文化政策から育まれる」

吉川由美(文化事業ディレクター、演出家)

「標高差 1,500m の地勢を活かしたスポーツツーリズムの創出」

花岡利夫(長野県東御市長)

「まちづくりにおけるプロスポーツクラブの有効活用」

鈴木秀樹(株式会社鹿島アントラーズ FC 取締役副社長)

基調講演

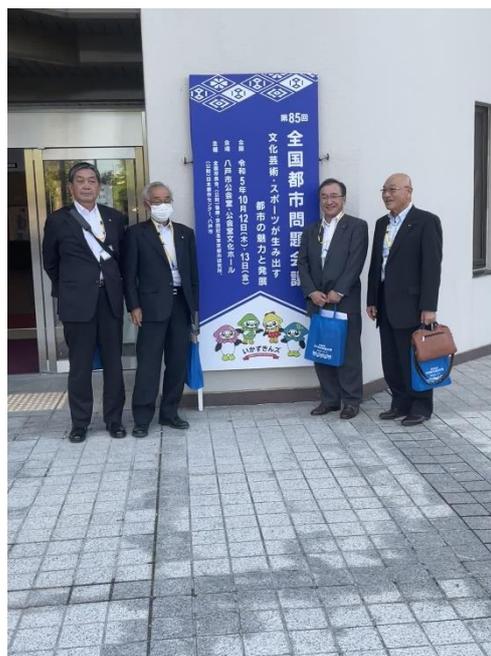
- ① 「アートとは一体何でしょうか？」というところから始まり
- ② 「アートは生きる力」
- ③ 「アートは多様性の指針」
- ④ 「アートは心に作用する」
- ⑤ 「あらためてアートっていったい何だろう」

という大きく5つのテーマについてお話をいただきました。

アートは人が人らしく生きていくためにとても重要な役割をもっている。「障害のあるなしや、個々の異なる背景にもかかわらず、誰しもお互いにその人をそれぞれのらしさを排除しない社会を目指し、多様性ある社会を築く基盤を捉え、社会的な課題に対して持続的に取り組み続けていくには大切なものである」と熱く語られておられました。また、締めくくりに、「今ではない未来の姿を想像する力、ここではない場所想像することができる力、1人1人の差異の違いを

否定することなく、そこにいることを排除しないという感覚。これらのアートの特徴を現代社会を構築していく中での、基盤に捉えていく社会を想像し、大きな力が世界を動かすのではなく、1人1人の小さいけれども、確実に存在する、少しずつ異なった多様な思いが時代を変化させていく」とお話しされていました。

深川市においても、スポーツ、教育、福祉とそれぞれに力を入れていれているところではありますが、こういったアートと絡めてさらに多様な取り組みを目指すことも大事になってくるのではないかと感じたところでもあります。



第2日目

パネルディスカッション

【テーマ】 文化芸術・スポーツが生み出す都市の魅力と発展

【コーディネータ】 東京大学大学院人文社会系研究科教授 小林 真理

【パネリスト】

合同会社 imajimu 代表取締役 今川和佳子

拓殖大学商学部教授 松橋崇史

静岡県沼津市長 頼重秀一

京都府綾部市長 山崎善也

閉会式

次期開催市市長挨拶 兵庫県姫路市長 清元秀泰

閉会挨拶 公益財団法人日本都市センター理事 奥山恵美子